



HIBIYA MUSIC FESTIVAL × HIBIYA LIBRARY & MUSEUM

日比谷音楽祭2024×日比谷図書文化館
本と音楽と

【図書展示】2Fエレベーターホール ~6/30(日)



今年も6/8(土)・6/9(日)に日比谷公園で開催される「日比谷音楽祭2024」とのコラボ展示を行っています。出演するアーティストの方々に思い入れのある本を選出していただき、推薦文を添えてもらいました。

※全ての本が展示されているわけではありませんが、選んでいただいた本は全てご紹介しています。

【ライブラリーコンサート】3F閲覧スペース 6/8(土)開催



カリンバ奏者のBunさんによるミニコンサートを開催します。昨年に続き二度目となる閲覧スペースでの生演奏です。図書フロアで奏でられる音色をぜひお楽しみください。

- 日時:6月8日(土) 11:30~11:45/12:30~12:45
- 場所:3階閲覧スペース
- ※10:00~14:00は座席等が特別仕様となっています。また、演奏中は館内に音が響きますので、ご了承ください。
- 鑑賞無料・予約不要

6月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン
「新紙幣の使いかた」(~7/12)
2024年7月から新しいデザインの紙幣が発行されます。前回のデザイン変更から20年が経過し、世界の動きや技術の進化によって、お金のあり方や使い方も変わりました。この展示ではお金の新しいかたちや使い方を学べる本を並べています。

2F パープルゾーン
三角台
特別展「しりあがりさんとタイムトラブル 江戸×東京」関連展示(~6/23)
しりあがり寿氏の関連図書や、パロディー作品のオリジナルである葛飾北斎「富嶽三十六景」をはじめとする浮世絵の作品集などを紹介しています。また、浮世絵や写真で江戸時代と現代の千代田区の風景が見られる資料を集めました。特別展とあわせてお楽しみください。

3F ブルーゾーン
「禁 -Taboo-」(~6/14)
古来より社会で忌み嫌われ、避けられてきた事柄を「タブー(taboo)」といいます。今回の展示では従来の文化規範的な禁忌や現代社会で禁止・隠匿されている事柄、文学や美術の歴史において発禁・検閲された資料に関する本を紹介しします。

3F グリーンゾーン
「今昔東西建築史~建築から学ぶ~」(~9/13) **NEW!**
建築は歴史上、権力や文化、芸術と密接に関わりながら発展してきました。この展示では古今東西のいろいろな建築に焦点を当て、建築がどのように社会、文化と繋がりを持ってきたか紹介していきます。また、建築そのものの多様性、様式美もお楽しみください。

展示 PICK UP

■3Fエレベーターホール ~7/24(水)
【日比谷カレッジ関連展示】
トルコを読む トルコを見る



トルコ
現代風刺漫画家の作品より
Halit Kurtulmus 作

日比谷カレッジ「トルコを知るタベ」の講師にお迎えする鈴木董氏の著作をはじめ、トルコの歴史や文化に関する本をお読みいただけます(一部貸出可)。さらにトルコ人作家による風刺漫画作品をご覧ください。協力:World Cartoon Forum



- 『オスマン帝国 イスラム世界の「柔らかな専制」』
● 鈴木 董 著
● 講談社現代新書
● 1992年
- 『食は イスタンブルにあり 君府名物考』
● 鈴木 董 著
● NTT出版
● 1995年
- 『カリカチュアの近代 7人のヨーロッパ風刺画家』
● 石子 順 著
● 柏書房
● 1993年

おすすめします!
図書フロアスタッフの推薦本を紹介します。

『五輪書』宮本武蔵
宮本武蔵が自らの流派について説いた兵法書ですが、剣術のみならず、生きていく上での姿勢や思想など、令和の社会にも通じることを論じた哲学書でもあります。希代の武人の言葉に、今を生きるヒントがあるかもしれません。

- ◎ 宮本 武蔵 著
- ◎ 佐藤 正英 校注・訳
- ◎ ちくま学芸文庫
- ◎ 2009年



特別研究室 企画展示
6/30(日)まで
内田嘉吉文庫に見る
日本統治期台湾の産業

日本統治期の台湾では製糖業の発展とともに数々の産業インフラが整備され、近代化が進みました。製糖業のほかにも品種改良により内地にも多く移出された米、試験場と伝習所の設置により本格的に発展した茶業、化学産業としての樟脳などの成長もめざましいものがありました。台湾総督府民政長官、台湾総督を歴任した内田嘉吉の旧蔵書にはこれら台湾の産業関連の資料も多く残されています。本企画では、当時の台湾の様子を「産業」という視点から紹介します。長谷川怜氏所蔵の日本統治期台湾の絵葉書とあわせてご覧ください。



台南の製糖工場(『台湾銀行二十年誌』/1919年)



鹽水港製糖花蓮製糖所大和工場宿舍の模型 22×22×3cm (制作:今村仁美 / アトリエイマージュ)

- 主な展示図書
『台湾銀行二十年誌』(1919年)
『台湾事情 昭和七年版』(1932年)
『日糖最近十年史』(1919年) ほか
- 開室時間
平日 10:00~20:00
土曜 10:00~18:00
日曜・祝日 10:00~16:00
- 会場:4階特別研究室
- 入場無料

6/11(火)
古書で紐解く近現代史セミナー 第45回
日本統治期台湾の製糖工場はどのように地域を変えたのか
講師:辻原 万規彦(熊本県立大学環境共生学部教授)

戦前期の台湾には日本の資本によって40か所以上の機械式の製糖工場が建設されました。台湾南部を対象に、製糖工場の建設が周囲の地域開発に与えた影響を考えます。さらに、清朝期の台湾が日本統治下に組み込まれていく過程を、製糖業による土地の管理の変化という観点から読み解いてみます。

- 日時:6月11日(火) 19:00~20:30 (18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円

calendar 開館時間:平日10時~22時 ■ 土曜10時~19時 ■ 日祝10時~17時 ■ 休館日

2024年 6月							2024年 7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	6	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



6・7月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

6/13 (木) 異常気象と気候変動の関係 —日本の夏は暑くなり続けるのか

講師：今田 由紀子(東京大学大気海洋研究所 准教授)

異常気象が発生するたびに地球温暖化との関連が疑われますが、科学的に証明することは実は容易ではありません。最新の気候モデルとスーパーコンピュータを駆使することで、今その糸口が得られつつあります。温暖化した地球で発生する極端な気象現象の現状と今後について、最先端の数値気候シミュレーションをもとに紐解きます。

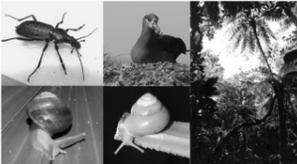


- 日時：6月13日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円

6/18 (火) 上廣・日比谷ライブラリー・レクチャー 私のチャレンジ人生 第5回 「進化は繰り返すのか、人生は変わらないのか」

講師：千葉 聡(進化生物学者)

「もし人生を過去のどこかの時点からやり直したとしたら、あなたの人生は今と違うものになるでしょうか。私が挑戦してきた問いはこれと似ています。生命進化の歴史を過去のある時点からやり直したら、今と同じ進化の結末になるのか、それとも全く違う進化が起きるのか—。答え探しの時空の旅を通じて、進化と人生の必然と偶然についてお話しします。(主催：公益財団法人 上廣倫理財団)



- 日時：6月18日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
 - 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員：200名 ■ 参加費：500円(千代田区民・学生は無料)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

6/21 (金) 時をかけて、映画音楽の歴史の旅へ 銀座、柴又、東京タワー… その映画、東京が舞台につき

講師：志田 一穂(ラジオDJ、文筆家)

関東大震災後の帝都復興。東京大空襲と終戦後の大混乱。ブギウギと踊れば浮雲が彷徨い、銀座では娘たちがカンカンとご立腹。ゴジラが、オリンピックが、万博がやってきた。寅次郎が高度経済に説教し、ナウな角川三人娘が優しい歌を歌う。そして21世紀、今にして笠智衆さんの笑顔を思い出すのはなぜか…。さまざまな映画で描かれた東京へ、レコードの音とともに時をかける旅に出ましょう。



- 日時：6月21日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

7/1 (月) 1つの問いから多様な発想が生まれる てつがく対話 体験会

講師：高橋 利直(株式会社ほんの木 代表)

てつがく的な「問い」には正解も不正解もないので、知識も必要ありません。必要なのは、考える「頭」だけ。大人になると、「一般的には」とか「大多数の意見はこうだから」と周囲に合わせがちです。たまには「本当にそうかな?」と、違った見方で自由に考え、他の人との対話を深める体験をしてみませんか。



- 日時：7月1日(月) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール) てつがくおしゃべりカード(ほんの木)
- 定員：20名 ■ 参加費：無料

7/3 (水) トルコを知る夕べ 第一夜 「トルコとトルコの文化」

講師：鈴木 董(東京大学名誉教授・歴史家)

今年は日本・トルコ修交100年。トルコ共和国の前身・オスマン帝国の歴史をまず通観します。そしてイスラム文化の影響下で成立したオスマン文化の特色を概観し、それが19世紀以降に近代西欧文化、とりわけフランス文化の影響下に変容し、現代トルコ文化形成に至った過程を明らかにします。



- (後援：駐日トルコ共和国大使館)
- 日時：7月3日(水) 19:00～20:45(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名
- 参加費：1000円

7/5 (金) 展覧会入口講座Vol.39 「朝鮮民族美術館をめぐる」 —日韓文化交流の礎となった日本民藝館のルーツ

講師：杉山 享司(公益財団法人日本民藝館 常務理事・元学芸部長)

朝鮮時代の美術工芸を一堂に会する史上初めての展示施設であった朝鮮民族美術館。思想家の柳宗悦が浅川伯教・巧兄弟とソウルの景福宮内に開設して、今年で100年の節目を迎えます。本講座では、その足跡をたどりながら、美術館が設立された目的や意義、蒐集されたコレクションなどについて紹介します。



- 日時：7月5日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円

染付秋草文取壺 (18世紀前半) 日本民藝館所蔵

7/11 (木) 他 日比谷オペラ塾「オペラ・あ・ら・かると bis」 没後100年記念 プッチーニ特集(全3回)

今回は、ジャコモ・プッチーニの没後100年を記念して、プッチーニの特集を3ヶ月にわたってお送りします。第1回は、台本への注文が多かった彼に振り回されたであろう台本作者たちにスポットを当て、プッチーニ・オペラを香原斗志氏が読み解きます。(主催：フェニーチェ劇場友の会)



ジャコモ・プッチーニ (1858-1924)

- 日時：7月11日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 注文の多いプッチーニと台本作者
- 講師：香原 斗志(音楽評論家)
- 8月8日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- プッチーニと日本との絆
- 講師：萩谷 由喜子(音楽評論家)
- 9月19日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- プッチーニとトスカニーニとの関係
- 講師：山田 治生(音楽評論家)

- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■ 定員：60名 ■ 参加費：1500円

7/20 (土) 境界 戦争体験者の証言2024

語り部：西倉 勝

戦後、ソ連軍によってシベリア・コムソムリスクの収容所へ抑留された西倉勝氏。極寒での強制労働と慢性的な飢えに苦しむ生活で「故国の土を踏むまでは、白樺の肥やしになるまいぞ」を合言葉に仲間と励まし合ってきました。西倉氏は、切なる平和への願いから「戦争から生まれた悲劇」を赤裸々に語ります。



- 日時：7月20日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
 - 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 - 定員：60名
 - 参加費：1000円(学生500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

7/24 (水) トルコを知る夕べ 第二夜 「風刺漫画から見るトルコと日本の100年」

講師：横田 吉昭(風刺漫画家・学術博士)

日本はマンガ大国と言われますが、今年国交100周年を迎えたトルコ共和国も実は風刺漫画大国です。その両者の展開は近代化の中で大きく異なります。トルコはフランスの影響を受けながら独自の風刺漫画が育ちました。その発展のありかを日本と比較しながら示していきます。(後援：駐日トルコ共和国大使館)



- 日時：7月24日(水) 19:00～20:45(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名
- 参加費：1000円

古文書塾てらこや体験講座 ◆ 各講座1,000円

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。7月期の開講に合わせ、古文書の世界に無理なく入っている「体験講座」をご用意しました。まずはお試しください。



	講座名	曜日・時間	実施日
入門コース 120分	古文書のいろは 筆字のくずし字	(月) 10:30～	6/24
		(月) 13:30～	6/24
		(火) 10:30～	6/25
		(木) 13:30～	6/27
		(金) 13:30～	6/28
本科コース 120分	いろいろの次—古文書いろいろ(午前クラス)	(火) 10:30～	7/2
		(火) 13:30～	7/2
特別講座 90分	文人画と碑文—掛軸を読む	(日) 13:30～	6/30
	古文書の保存・修復の知技能—古文書保存のセラピスト講座	(火) 13:30～	7/9
	武家文書を読む—幕府崩壊事情	(水) 13:30～	7/3
	幕末・江戸庶民の世相を読む—「嘉永雑記」の世界	(木) 10:30～	6/27
	くずし字で楽しむ江戸歌舞伎	(土) 13:00～	6/29
特設 月1回コース 90分	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	6/25
	開国ニッポンの外国人	(水) 13:30～	6/26
	江戸を楽しむ—江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	6/27
特設 月1回コース 90分	江戸・明治の書状を読む—形式と内容、一歩から	(金) 18:30～	6/28
	ハーバード大学本『源氏物語 須磨』の変体仮名を読む	(土) 13:00～	7/6
特設 月1回コース 90分	陽明文庫旧蔵『百人一首』の変体仮名を読む	(土) 15:30～	7/6

- 会場：4階スタジオプラス、セミナールーム
 - 定員：各講座23名(申込順) ■ 費用：各講座1000円
 - 資料請求・体験講座のお問い合わせ：電話(03-3502-3340)
- 日比谷図書文化館代表 古文書塾てらこや担当迄

開催中! 特別展 ～6月23日(日) しりあがりさんとタイムトラブル 江戸×東京



漫画家・しりあがり寿さんが、これまで発表した北斎のパロディー作品を中心に千代田区を描いた浮世絵パロディー4点を初公開しています。お見逃しなく!

©しりあがり寿《疲れてます》2018年

- 休館日： 6月17日(月)
- 開室時間：月～木・土：10時～19時、金：10時～20時、日・祝：10時～17時(入室は閉室の30分前まで)
- 会 場： 1階特別展示室
- 観覧料： 一般500円、大学・高校生300円、区内在住者・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などを提示)

EXHIBITION

展示「マンガから始めよう
心で感じよう! 頭で考えよう!! 文で伝えよう!!!
—サブカルが育む未知なる感性—

全国から1万2000人以上の中小高生が参加する「マンガ感想文コンクール」。2023年度の入賞作品をパネルで紹介するとともに、マンガ・作文入門などの関連書籍を展示します。

協力：一般財団法人 出版文化産業振興財団(JPIC)

- 日時：5月27日(月)～8月24日(土) (予定)
- 会場：千代田図書館9階 展示ウォール